

「主体的・対話的で深い学びに向かうための 授業改善」実践事例

第1学年

道徳科を中心とした授業改善



1 子どもが見通しをもち、 自分の考えや思いを主体的に表現するための工夫

(1) 導入の工夫

自分たちの写真を見せたり、生活経験を想起させる発問をしたりすることで、考えさせたい道徳的価値への関心を高める様子が見られた。

アサガオやサツマイモが
どんどん大きくなって、
うれしかったな。



(2) 教材提示の工夫

教材を自分事として捉え、本時の主題に関わる問題意識をもって学習に取り組ませるために、紙芝居や読み聞かせをしたり、教材を途中で区切って提示したりするなど、教材提示の仕方を工夫した。



自分だったら
どうしたらいいかな。

(3) 表現活動の工夫

自分の思いを豊かに表現させるために、考えることの視点を明確にし、動作化や役割演技などの多様な表現活動を取り入れるなど、場の設定を工夫した。



どけどけ、
じゃまだじゃまだ。

(「はしのうえのおおかみ」より)

いじわるされたら
嫌な気持ちになるね。

2 自他を大切にし、 学び合う活動（ハイリントタイム）の充実

(1) 発問の工夫

教材分析シートや教材研究ノートを活用した教材研究を行った。

中心発問や問い返しをあらかじめ考えておくことで、ねらいにせまる活発な話し合いとなった。また、考えを伝え合うことで、物事を多面的・多角的に考えさせることができた。

教材分析シート

教科名（出典）	かぼちやのつる（東京書籍）	
主題名	わがままな行い	
教材の骨子	① 道徳的に寛容したのは誰か。	かぼちや
	② 寛容するきっかけとなったことは何か。	自分勝手につるを伸ばし、トラックにつるを踏まれ、つるが切れる。
	③ 生き方についての考えを深めるところはどこか。	「いたいよう、いたいよう。」と涙を流す。
構成	話の展開	
	道徳上の展開	
中心発問と問い返し	<p>◎中心発問 つるを切られて泣いているとき、かぼちやはどんなことを考えていたのだろう。</p> <p>（予想される児童の反応） → （問い返し）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラックひどい→トラックは悪いことをしていたのかな。 ・つるを伸ばさなきゃよかった。→つるを伸ばさないと大きくなれないよ。 ・痛いよう。→どうして痛い思いをすることになったのだろう。 ・みんなの言うこと聞いておけばよかった。→どうして？ ・好き勝手に伸ばせばいいと思ってしまった。→じやあどうすればよかったのかな。 ・次からは周りの人のことを考えて行動しよう。→行動したらどうなるかな。 	
ねらいに迫った児童の考え	周りのことを考えずに行動したせいで、周りも自分も嫌な思いをしました。周りの人の注意をちゃんと聞いて行動すればよかった。	
内容項目	A 節度、節制	
ねらいの具現化	自分勝手に行動し、涙を流しているかぼちやの気持ちの変化を考えたことを通して、自分勝手な行動をせず、周囲に対する気配りや思いやりをもち、気持ちよく生活しようとする心構えを育てる。	

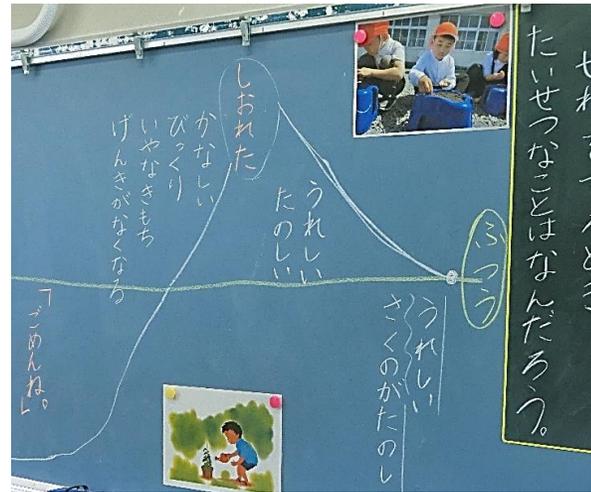
教材分析シート

(2) 板書の工夫

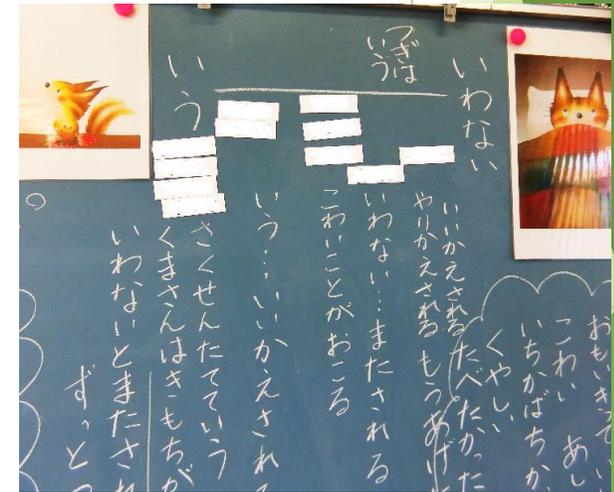
心情グラフやネーム磁石を活用して考えを視覚化させるなど、板書を工夫することで、道徳的価値について考えを深め、自己の生き方を見つめ直せるようにした。



葉っぱに色を塗って心情の変化を表す



心情グラフ



ネーム磁石の活用

(3) 話し合い活動の工夫

ア ペア・グループでの話し合い活動

ペアで話し合うときには、自分と似ている意見ではハイタッチ、「なるほど」と思ったら握手などの動作を取り入れ、自分の考えと比べながら聞く必要性が生まれるようにした。

なるほど、こういう考えもあるんだな。



同じ考えだね。
ハイタッチ！

(3) 話し合い活動の工夫

イ 全体での話し合い活動

全体で話し合う場面では、机の配置をコの字型にして児童の方を向いて発言させることで、相手意識をもって自分の考えを伝えたり、友達の考えを進んで聞いて多様な価値観に触れたりすることができるようにした。

付け足しで、自分も嫌な気持ちになると
思います。



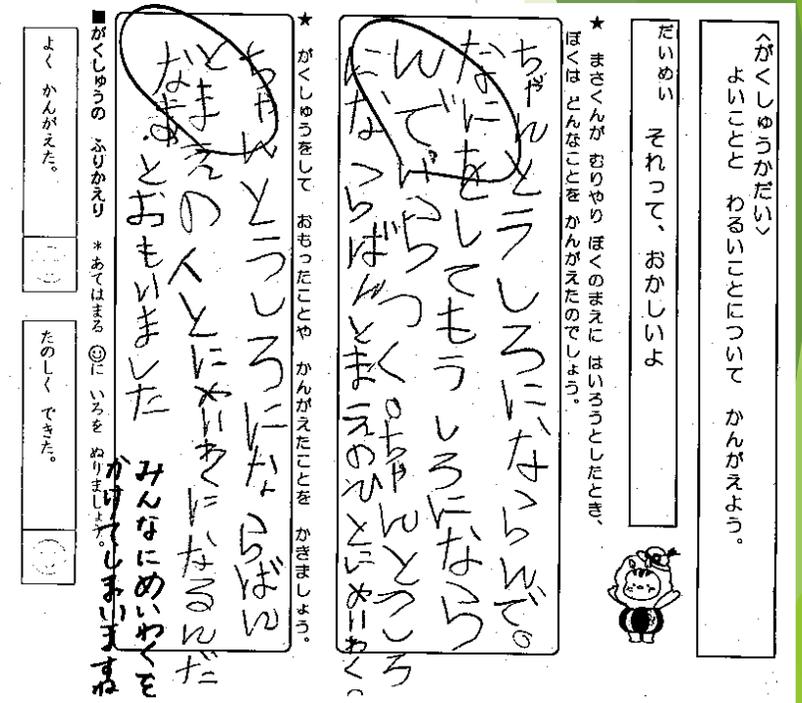
自分勝手にすると
周りの人も嫌な気持ち
になります。

3 学びの成果と自己の成長を実感し、 次の学びにつなげるための振り返りの工夫及び評価

(1) ワークシートの工夫

自分の考えを深める時間を多く取るために、中心発問や振り返りのみ書かせるようにした。

書くことで自分の考えを整理し、友達に自分の考えを進んで伝えることにつながった。



(2) 家庭との連携

ア 学級通信の活用

授業の様子や、児童の考えが深まった様子などを学級通信を通して家庭に伝えることで、家庭でも学習したことを話すきっかけづくりを行った。



道徳科「ダメ」の学習では、よくないことがあったとき、勇気をもって行動する大切さについて考えました。「注意をしたら言い返されるかもしれないから言いたくないな。」「言わないままだとまた嫌なことをされてしまうかもしれない。」などたくさん考えを伝え合い、「言わないと相手に嫌だって気持ちが伝わらないから勇気を出して言おう。」と正しいことは勇気をもって行おうとする心情を高めました。



はじめのいっぽ!

拝志小 11年 No.11
令和5年 7月 3日

6月も終わり、1学期も残り1か月足らずとなりました。個別懇談会では、子どもたちの学校での様子などをお伝えできたらと思います。短い時間ですが、よろしく願いいたします。また、懇談後に一人一鉢のアサガオを持って帰っていただきます。大きめの袋などをご持参ください。教室廊下に並べています。よろしく願いいたします。



道徳科「ぼくのあさがお」の学習では、動植物を育てるときにどんなことが大切かを考えました。自分たちのアサガオを世話しているときやアサガオが大きくなったときのことを振り返りながら動植物に優しく接しようとする心情が高まりました。

〈ぼくの、わたしのあさがおへ〉

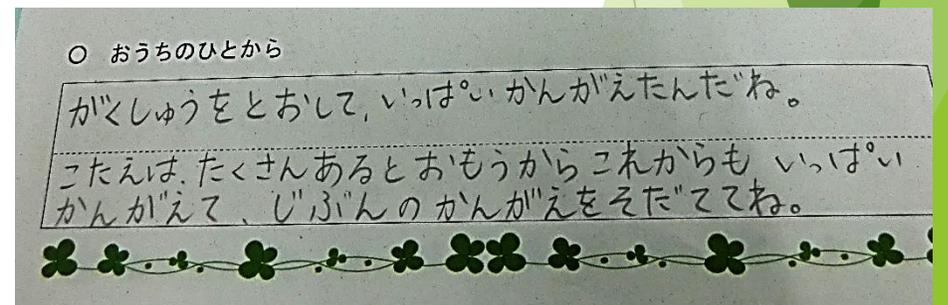
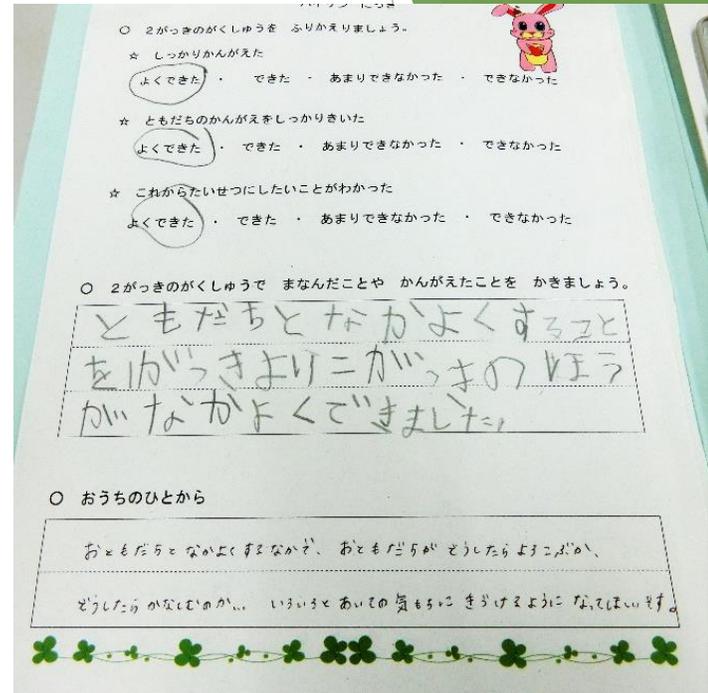
- ぼくも水やり忘れないよ。頑張れ。()
- 早く大きくなってね。枯れないようにするからね。()
- 頑張って育ててね。いっぱいつぼみをつけてね。()
- 頑張って大きくなってね。ぼくもいつも水をあげるからね。大事にするよ。()
- お水忘れないよ。だから元気でいてね。(ひな)
- 成長してね。お水をあげるよ。きれいな花を咲かせてね。()
- これからも育ててね。()
- 大きくなってね。頑張ってね。これからもよろしくね。()
- これからも水をあげるからね。()
- これからもお水をあげるから頑張ってね。()
- これからも大事にするよ。()
- おー。(つぼみができることに感動しました。)()

(2) 家庭との連携

イ ハイリン日記の活用

学期末に道徳科の授業を振り返る活動（ハイリン日記）を行い、家庭に持ち帰ってメッセージをもらうようにした。

児童の考えに対する保護者からの反応をもらうことで、児童は学習内容について改めて振り返る機会となった。



成果

- 導入や発問、問い返しを工夫したことで、児童は見通しをもって主体的に学習に取り組んだ。それにより様々な立場で考えたり、友達の多様な考えを知ったりすることができ、物事を多面的・多角的に捉え、考えを深めることにつながった。
- 話合いのときにハイタッチや握手などの動作を取り入れたことで、自分の考えを一方向的に伝えるのではなく、互いに聞き合おうとする児童の姿がよく見られた。また、自分と異なっている考えも受け入れる姿勢を育むことができた。
- グループでの話合いを積極的に取り入れたことで、自分の考えをもつことが難しかった児童も、友達の考えを聞いて、自分の考えをもつことができるようになった。

課題

- 話し合い活動では、友達の話を聞いて自分の考えと比べられる児童は増えたが、自分の考えを深められている児童はまだ少ない。今後も話し合い活動を充実させ、自分の考えを深められるような工夫を行いたい。
- 全体での話し合いの場面では、教師との一対一の対話ではなく、学級全体を巻き込んだ話し合い活動になるようにしていくために、児童相互の考えをつなぎ、深めていくような指導を研究していく必要がある。
- 振り返り活動の時間が少なくなってしまう、十分に考えを深めさせることができないことがあった。十分に教材研究を行い、児童に何を学ばせたいかを教師が明確にしておくことで、振り返る時間を確実に設定するなど、さらなる授業改善を図りたい。